

初の東川・中国大連交流展開

昨年11月22日から12月6日まで、文化ギャラリーで開いた中国・大連交流展に合わせて、初日の22日夜、同ギャラリーで「日中写真交流事業報告会」が開かれました。

日中国交正常化35周年を記念して中国国内で開かれたジャパンウィークに呼応して、昨年5月、大連市を訪れセレモニーに参加した写真の町実行委員会の大連視察団（团长・長原淳副町長）7人が、大連市撮影家協会（王大斌会長）訪問の様子や大連市内などの印象を披露しました。

「庶民の暮らしは1カ



月に1000円程度（1元は約15円）、日本円で1万円あれば1カ月間暮らせるようだが、おみやげを買おうとすると2000円、3000円する」「一歩裏に入ると、表通りとまったく違う裏の町の面白さが興味深かった」など、日本との違いに強い印象を感じた様子。

「以前は汚水を流し込むための下水道のマンホールにタンツぽが付いていたが、今回はなくなっていて衛生上改善されたように感じた」などと急速な発展ぶりの話も出て、来場者は興味深げに聞き入っていました。

命の重さを感じた映画「二人日和」上映会

昨年11月12日、農村環境改善センターで主演・藤村志保、共演・栗塚旭、野村恵一監督作品の映画「二人日和」の上映会がありました。

45年間連れ添った老夫婦に突然付き付けられた妻千恵（藤村志保）の不



治の病、ALS（筋委縮性側索硬化症）の宣告。千恵は手足が動かなくなり、徐々に全身、そして呼吸さえも自分でできなくなっていく。

ゆつくりと死に向かいゆく妻。夫黒田（栗塚旭）との間に交わされる夫婦の情愛、命の尊厳、高齢人口の増加で今後深刻さを増す在宅ケア問

題などが描かれています。これから介護福祉士を目指す北工学園旭川福祉専門学校の学生200人も鑑賞に訪れました。

「妻の病気が悪化していくにつれ、妻が心をふてさいでしまい、2人の仲も、夫の思いと妻の思

いのすれ違いが感じられ、なんともいえない悲しさが込みあげてきました」。

「家族の誰かが病気になった時、この映画のようにすっかり支えてあげられる自信はありません。何か大切なものを捨ててまで支えられるかというと、きっとできません。しかしそれくらいの覚悟で人を支え、愛

ライオンズクラブ、羽衣園ひだまりの里で恒例の餅つき

昨年12月19日、東川ライオンズクラブ（小坂忠会長）が、特別養護老人ホーム・羽衣園（川島雄二施設長）と老人保健施設・ひだまりの里（本村勝昭施設長）で餅つきをしました。年末恒例の行事です。「おいしくお餅を食べて、ますますお元気に過ごしてください」と白ときねを使っ

てお餅をつきました。お年寄りには「よいしょ、よいしょ」と掛け声を掛け、ホールに集まって出来上がりを楽しみに見守りました。

お餅は、両施設それぞれ3キログラムずつつき上がり、お昼のお雑煮、おやつのお汁粉に調理しておいしくいただきました。



羽衣園で

町在宅ケア推進事業実行委員会（山口佐知子委員長）が主催しました。介護保険、在宅介護の普及啓蒙のため平成7年から毎年講演会や映画上映会を開いてきました。そして今回が最後の事業になりました。昼・夜2回に約800人が訪れました。